



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

# 志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」  
 2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」  
 2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凛として挑む 一 衆の目的を目指し」

第2271回 例会

2019-3-13

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 我等の生業
- ◎ソングリーダー 田中 幸彦 会員
- ◎四つのテスト 田中 幸彦 会員
- ◎ゲスト 林 博之様 (卓話者)  
森田 梨加さん (青少年交換学生)  
森田 聡子様 (保護者)



志木市社会福祉協議会から感謝状を戴きました



ソングリーダー・四つのテスト 田中幸彦会員

## 「会長挨拶」

会長 林 康雄

地球は水の惑星と言われていました。今日、日本では飲み水に不自由するという話を聞くとはありません。また、近代化された衛生的なトイレは噴水がおしりを洗ってくれ毎日気持ちよく用を足せます。しかし、今でも世界では、汚れた飲み水やトイレの不備から、毎日約800人もの子供たちが命を落としていると言われていました。「トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい」と活動するユニセフの資料によると、2015年の時点で、21億人が安全に管理された飲み水を使用することが

できず、世界の約9人に1人(約8億4400万人)が、自宅から往復30分以内で水を汲んでくることが出来ないそうです。自宅近くに水源がない多くの地域では子供達が長い道のりを歩いて、水を汲みに行かなければならないことから、学校に通うチャンスを失うこととなります。水を汲む道のりは、常に安全であるわけではなく、水汲みの役割を負わされることが多い女の子は暴力の被害を受けるリスクに晒されていると報告されています。

このような、世界の現実を変えるには、まずは水場のない村に井戸を掘ることです。しかし、そのプロジェクトは外から人が来て井戸を掘って終わりでは意味がありません。プロジェクトのカギはその地域の人々の参加であると言われていました。井戸プロジェクトはその村の人々が自分たちの力で生活を改善する方法を身に着けるものでなくてはなりません。井戸づくりの方法を通じて村の男性も女性も協力し、与えられた井戸ではなく「自分たちの井戸」という意識をもって大切に井戸を使い長持ちさせる。井戸づくりの過程から

人々の衛生意識が培われていくことが大切です。井戸づくりには、地質調査や大きな掘削機など外部からの支援が必要ですが、資材を運んだり、水場のコンクリート打ちの労力は村の男性が関わり、井戸を管理するグループは女性が中心となって組織することで、資金の節約になり、女性の地位も向上することになります。井戸ができることで、病気が減り子どもの命と健康が守られ、井戸水から農地を潤すことが出来、水汲みについやした時間と労力を他のことに向けることができるようになります。

トイレに関する問題も深刻です。世界では約 45 億人が、安全に管理されたトイレを使用できません。このうち 8 億 9200 万人以上は、今でも道ばたや川や草むらで用を足すなど、屋外排泄が行なわれていると言われていいます。「水と衛生」に関するプロジェクトを考えると生活水を確保することだけに焦点を当てていると、水で失われていく命を救うことは出来ません。人々が川や草むらで用を足している限り、井戸水はいずれ汚染されてしまいます。衛生的なトイレがないために飲み水が汚染され、それが原因で病気に罹ってしまったら、貧困から抜け出して生活を改善することは出来ません。

ロータリークラブには、『ミスター・トイレット』と呼ばれるようになったジャック・シムさんと言う方がいます。シムさんは、人が避けたがる話題であるトイレを、ユーモアを交えて話すことで、会話のトピックにしているそうです。どんなに扱いづらい話題でも、相手を笑わせれば、耳を傾けてくれるようになるものです。タイに『ミスター・コンドーム』と呼ばれている人がいます。この人は、ユーモアを駆使して、コンドーム使用の重要性を人々に伝えました。シムさんはそれに習ってトイレの話をするれば、聞いてもらえると思ったそうです。衛生的なトイレがないために飲み水が汚染され、それが原因で病気にかかってしまったら生活が改善することが出来ません。シムさんは、衛生状態を改善する上で、人々の行動を変えること、特にきちんと

したトイレを使いたいと思わせるようにすることに重点を置いています。シムさんは、携帯電話を持つのと同じように、家に近代的なトイレがあることを、ある種のステータスシンボルと考えてもらうことだと言います。今は、スラム街の子どもたちでも携帯電話を持っていますが、家にトイレがないことが良くあるそうです。ですから、「携帯電話を買ったのなら、トイレも設置すべきだと考えてもらうようにすべきです。」と言います。

衛生プロジェクトを持続可能なものにする一番の方法は、市場のメカニズムを活用することです。ただトイレを設置して、人々がそれを使ってくれるのを待つのではなく、住民が自らトイレ設備の製造工場を設置できるよう人々を研修し、その製品を歩合制で販売するための研修を提供すれば、雇用機会が増え、企業家が生まれ、それと同時に衛生状態も向上します。このような事業は、投資資金が使い果たされた後も成長を続けるものになると述べています。ザ・ロータリアンでありミスター・トイレットと呼ばれるジャック・シムさんは、自分の残りの人生を世間が見落としている課題（衛生的なトイレの普及）に専念したいと活動しています。

## 「理事会報告」(3/6開催分) 会長 林 康雄

### 1. 例会振替の件

4/10(水)を 4/14(日)の地区大会に振替

⇒全員登録

4/17(水)を同日『献血活動』へ協力に振替

⇒例会振替

### 2. 3/27(水)移動例会の詳細及び登録料の件

3月 27 日(水) 点鐘 17:00

場所：宝幢寺 食事はおひげ寿司

### 3. 志木柳瀬川 RC からのクラブ吸収合併の申し込みの件

合併検討委員会を発足させる。メンバーは林会長・小泉直前会長・上原エレクト・岩下会員・星野会計

志木柳瀬川 RC と協議を行い、各クラブにて総会を行い合併するか否かを決議する。

なお、合併手続きについては地区・RI 日

本事務局等に確認する

4. 志木 RC のホームページの掲載写真の件  
地区に活動報告の写真を掲載する。又合わせて壁画の写真も掲載する。

### 「幹事報告」

幹事 市之瀬正靖

1. 地区事務所より地区大会における選挙人名簿提出の願い受信
2. 第 24 回日本青少年交換研究会金沢会議  
来日学生・ROTEX 向けエクスカージョンの案内受信  
日時：5月25日(土) 13:00～16:45  
集合：県立音楽堂1階 12:30 集合  
(住所：金沢市昭和町 20-1)

### 「次年度米山カウンセラー」

高野邦夫会員



### 「青少年交換学生挨拶」

森田梨加さん



フランスへ派遣予定の青少年交換学生  
森田梨加さんが挨拶されました

### 「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 副委員長 山村昭康

#### 『ロータリーの友』3月号記事紹介 横組 P3 RI 会長メッセージ

「最近最も印象深かったのは、ガーナで 60 ものローターアクトクラブがある地域を訪れたことです。皆、現状の数に決して満足して



おらず、倍増計画を立てていました。彼らなら達成してくれるでしょう」以下本文参照  
各国のローターアクトクラブのことが紹介されています。是非お読み下さい。

#### 〃 P52 「表紙について」

イラストレーターおかドド

「私は関東の水がめといわれる所の生まれで、干上がりそうなダムや濁った川と畑の景色が脳裏に焼き付いています。」以下本文参照  
毎月ロータリーの友を配付され最初に目に入るのは表紙です。友記事紹介にあたり改めて表紙を見ながら水の大切さを感じました。

#### 縦組 P4 「地球の明日を考える水の SDGs」

広島大学名誉教授安藤忠男様

「私たち人類は多種多様な問題を抱えています。今まで私たちはこれらの問題の解決に努力してきましたが、問題をほとんど解決できなかったばかりでなく、新たな問題も抱えるに至っています。」以下本文参照

皆さん SDGs については、持続可能な開発目標と定義されており、我々人類共通の大きなテーマです。是非、インターネット等で調べて下さい。

### 「卓話者紹介」

宮原俊介会員

### 「卓話」

#### 「木材利用がもたらす環境、 地域振興への効果」

ランフォレスト合同会社代表 林 博之様

【主な活動】ときがわカンパニー合同会社において、「ときがわ方式拡販事業部部長」として、山と町、いわゆる「川上」と「川下」をつなぐことを目的に活動。関口前町長がトップセールスで公共の学校にときがわ町の木を提供する活動を行っていたが、ときがわカンパニーは民間、主に

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい。

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

■富士見 RC (金) 12:30～ 島田ビル1F

■新座こぶし RC (水) 12:30～ ベルセゾン

■朝霞キャロット RC (月) 19:00～ シティ・イン北朝霞 3階ホール

2271-3◇  
志木 RC 会報



幼稚園や保育園に木を提供している。木の良さを知ってもらい、その上でときがわ町の良さを知ってもらうことが目標。



埼玉県ときがわ町は面積の7割を森林が占める中山間地域です。しかし町の基幹産業である木工建具をはじめとする木材関連産業に対し、利用期を迎えた森林資源が供給され難い産業構造となっています。

こうしたジレンマを解消し、森林に循環のサイクルを再び取り戻そうと取り組んだのが学校施設の「内装木質化」です。地域産の木材を積極的に用いて、鉄筋コンクリートの校舎を木のぬくもりあふれる学校にリニューアルする手法は、ローコストで長寿命化を図る手法「ときがわ方式」として全国的に高い評価を得ています。

国民一人一人が森林を支え、次世代に豊かな資源を引き継いでいくための仕組みとして、来年度から全国の市町村に森林環境贈与税（仮称）の譲与が始まります。植えて、育てて、伐って、使って、再び植える森林循環のサイクルと、次世代を担う子どもたちが木のぬくもりに触れる重要性を解説します。

●出席報告 出席向上委員長 高野邦夫

会員数44名 出席義務者35名 免除者9名

本日出席	本日欠席	本日出席率
36名	5名	87.80%

前々回 MU (6名中2名)	前々回修正出席率 90.00%	平均出席率 94.50%
-------------------	--------------------	-----------------